

十億円―慰安婦に「追い銭」

何が最終・不可逆だ!

# またムシりとられた 日本外交

呉善花

拓殖大学教授

前川恵司

ジャーナリスト

写真／高山透

金泳三いわく「日本のマスコミ、特に朝日新聞は本当にありがたい」

## 慰安婦映画『鬼郷』大ヒット

呉 今年の二月、韓国で『鬼郷』ききょうとい

う慰安婦を題材にした映画が公開されました。韓国国内では、信じられないほど爆発的に大ヒットしています。

「鬼郷」とは「鬼になっても故郷に戻る」という意味で、戦地に行き、苦しんで死んでいった若い女性たちがいる。その女性たちが、たとえ霊（鬼）になったとしても、自分たちの故郷に戻ってきてほしいという思いを込めて、このタイトルがつけられたのです。日本に対する「恨」の気持ちが

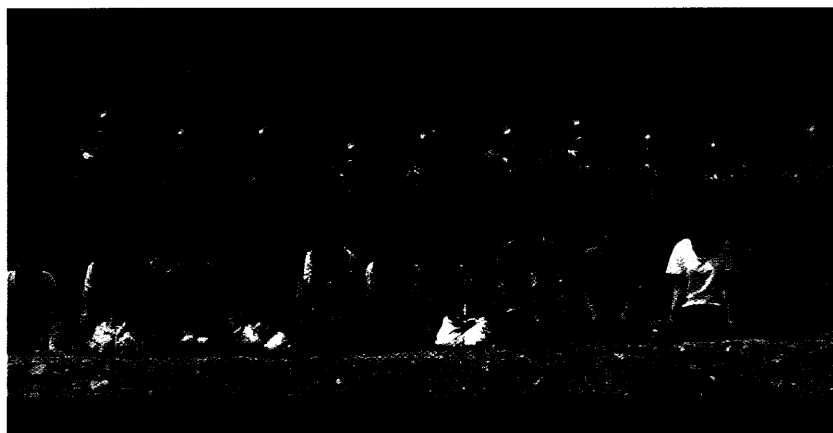
込められています。

前川 この映画は「証言」に基づいてつくられたと言われていますね。

呉 私はダイジェスト版のようなものをインターネットで見ました。

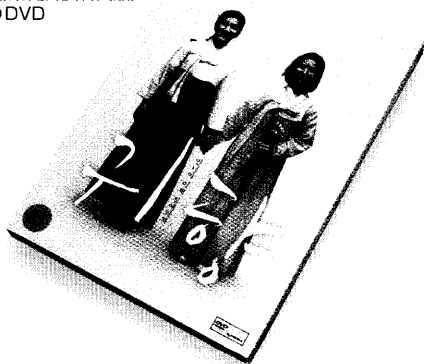
田舎の家に、日本の軍人が数人、銃を持ってやってくる。両親は畑に行き、家には十三、十四歳の娘が一人にいる。その娘を無理やりトラックに乗せていきます。娘は戦地に行き、一日に大勢の人間と関係を持ち

## ●またムシリとられた日本外交



映画『鬼郷』のワンシーン。日本軍に強制連行される少女(上)、銃殺刑に処される慰安婦たち(下)

映画『鬼郷』(韓国版)  
のDVD



ますが、そのまわりには病気になった若い女性たちがたくさんいる。日本の軍部は、そのような女性たちを全員集め、大きな穴を掘り、投げ入れて燃やしてしまう。そういう内容のようです。

前川 韓国では公開と同時に一週間で百万人以上が見たそうです。日本



まえかわ けいじ

1946年、東京生まれ。慶應義塾大学卒業。71年、朝日新聞社入社、出版写真部、川崎支局、週刊朝日、外報部、ソウル特派員、朝日新聞インターナショナルシンガポール社社長などを経て、現在はフリージャーナリストとして活動。著書に「朝日新聞元ソウル特派員が見た「慰安婦虚報」の真実」(小学館)など。

でも七月に上映会があったと聞いています。

呉 大ヒットしたため、映画館の数  
が足りません。そこでソウル市長は、  
いろいろな会場で無料で上映するこ  
とに決めました。学校をあげてその  
映画を見に行uksi、田舎の高齢者も、  
団体で見に行っています。

ネット上での反応を見ると、ほと  
んどの人たちが、「涙なしに見られな  
い。こんなに苦しめられていたとは  
知らなかった。すべての韓国人が見  
るべきだ」と書き込んでいます。

前川 証言をした人は、姜日出さん  
という人です。でも、チフスにかかっ  
たので殺されそうになったとか、日

本軍が退却するときに焼き殺されか  
かったとか、証言が本によってこれ  
ほど揺らいでいるのに、どうして韓  
国の人たちは事実だと思うのでしょ  
う。

呉 韓国では事実よりも、社会のムー  
ドがそうなっていることが大きい。  
情緒がまされば、いくら事実是这样  
だと言っても、批判が入る余地はま  
ずありません。韓国は冷静に判断す  
るよりも、情緒で判断する社会なの  
です。裁判もそうです。産経新聞の  
加藤記者の裁判もそうでしたね。

前川 確かに、偽証がすごく多いで  
すね。「どうして偽証したの?」と聞  
くと、「かわいそうだから」です。あ  
とは、「お金がもらえるから」とか。

呉 社会のムードによって、どんど  
ん世論は変わっていきます。韓国は  
「法治国家」ではなく、「情治国家」な

のです。

## 突如湧いた「慰安婦問題」

前川 もともと、慰安婦問題がクロージアアップされ始めたのは、盧泰愚政権の九一年ごろ。それが金泳三キム・ヨングサム政権（一九九三年～一九九八年）のとき



オ ソンファ

1956年、韓国生まれ。拓殖大学国際学部教授。大東文化大学卒業後、東京外国語大学地域研究科修士課程修了。韓国時代に4年間の軍隊経験あり。外語大大学院時代に発表した「スカートの風」が大ベストセラーに。また『攘夷の韓国 開国の日本』で第5回山本七平賞受賞。著書に「私は、いかにして「日本信徒」となったか」(ワック)など多数。

に、大事おおごとになったのでしよう。

呉 確かにそうです。慰安婦問題は、それ以前は言われていませんでした。金泳三氏が大統領になって、いきなり反日運動を展開し、日本に関わるものを次々に排除していきました。旧総督府の建物を壊したのも、その頃です。ほかに、桜の木を釜フ

山周辺以外、全国的に伐ってしまいました。なぜかといえば、桜は日本の象徴であるということと、日本の統治時代、桜を各地に植えたからです。

小学生のころ、私の故郷、済州島では、桜の花がすごく有名でした。

校庭にいっぱい咲いていて、子供心に、いつもキレイだなと。ところがあるとき、故郷に帰ってみると、全部伐られていて殺風景でした。

前川 桜の木を伐っておきながら、後になって、「日本のソメイヨシノの原産は済州島だ」と言っている。さらには日米親善の象徴になっているワシントン、ポトマック川堤の桜まで、済州島の桜だと言っているほどですよ。

呉 ものすごく強力な反日政策を進めたのです。慰安婦問題も、ここか

らです。

前川 私は一七一年ごろ、韓国にある米軍の基地村を回りました。ウインヨン ウンナヨン議政府や雲川などです。

そのころ、慰安婦というと、イコール「米軍慰安婦」のことでした。旧日本軍の慰安婦については、まったく言われていなかった記憶があります。

呉 私が韓国にいたころも、日本の「慰安婦」について話を聞いたことはありません。日本に来て、あるシンポジウムで、そのことを話したことがあります。そしたら、韓国ではずいぶん叩かれました。

前川 これは、金泳三氏が希望したというよりも、日本のメディアなどが勝手に騒いで火をつけたところがあります



一九八八年、韓国・ソウルの青瓦台で盧泰愚大統領（中央）を表敬訪問し握手する石橋正嗣元駐云克委員長（左）。右は金泳三民主党総裁写真提供：AP（川口啓事）

す。日本の場合、市民活動家の存在が大きいのです。それまで韓国人原爆被爆者やサハリン残留韓国人問題を取り上げていましたが、それが終わり、次は何かということでも、「慰安婦問題」が取って代わったのです。国内の反体制運動も一時の力がなく、目標を失っていましたから。

韓国の外務省の役人は、「これはお互いに恥ずかしい問題だから、まあ、穏便に」という感じでした。金泳三氏も、基本的に同じ考え方だった。それが、日本の運動家たちに押し切られてしまった。結局、自分たちの政権を守るために、反日政策にすぐ打って出る。こういう形になってしまっ

たのです。

呉 日本では『朝日新聞』が騒いでいましたよね。

前川 九一年あたりから本格化しました。僕は朝日新聞の外報部にいましたが、この問題はどこの新聞社も社会部で取り上げていました。韓国の問題をよく理解していない記者たちが中心でした。朝日の場合は、よく知っている記者たちがいた。そこが今も問題視される一因です。

当初、運動団体で一番活発だったのが「太平洋戦争犠牲者遺族会」です。「被害者」を集めて会費を取って、日本に金を払えと裁判をする団体でした。それから「慰安婦」とはまったく関係がない「挺身隊」を団体名に入れた、「韓国挺身隊問題対策協議会」が入ってきた。「慰安婦」という言葉だと、韓国の人たちはピンと来な

い。「挺身隊」といえば、日本が相手だと反射的にわかる。だから「挺身隊問題」としたのではないのでしょうか。

呉 混乱しているのです。「女子挺身隊」も「慰安婦問題」も区別ができていません。

前川 僕は六〇年代終盤から七〇年代にかけて、韓国によく行っていました。そこでお世話になった家のお母さんが「女子挺身隊」のことで、「あのころは大変だったのよ」という話をしていました。良家の娘が工場で働いたら、お嫁に行かせられなくなる、その前に結婚させようと大騒ぎだったそうです。

つまり、「女子挺身隊」と「慰安婦問題」はまったく別物なのですが、この二つを一緒にしたような報道がされるようになってから、おかしくなったのです。

呉 金泳三氏は朴正熙氏パクチヨシに對抗して、野党の立場で、反朴正熙運動とずっとしていました。いざ大統領となったら反軍事政権という流れと結びついた。そうなる、今度は民族主義に変貌してしまった。この民族主義が、さらに「反日」へとつながっていく。そのような物語が形づくられていったのです。

前川 金泳三氏は個人的に会うと、「今、こうしていられるのも、日本のマスコミのおかげだ。特に『朝日新聞』は本当にありがたい」と言っていました。日本側の問題も大きいと思いますね。

「日本人だけは許せない」

呉 韓国人は昔から「日本人より自分たちのほうが上だ」という意識が強い

のです。我々はいつも中国側につき、中華思想の中にいる。「小中華」です。ところが、日本は辺境の島国で、日本人はズカズカと我々の領土に侵入してくる未開人、野蛮人だということです。

韓国の反日教育は、常に「侮日」と結びついています。日本人は低級な血が流れている人たちだと教え込んでいます。そこに韓国人が高度な文化を持って漢字も仏教も教えてあげた。そこでやっと日本は国らしき国になったと。

だから、韓国からすると「この身分の低く卑しい人間にやられた」ということが許せないのです。

前川 それが韓国人の怒りのもとですな。

呉 それはものすごい。しかも、それが男女関係となると、もっと凄まじい。

じくになります。

かつて釜山に「日本館」がありました。日本人相手に売春をしている韓国人女性もいましたが、バレたら殺されていたのです。

前川 李氏朝鮮時代の話でしょう。八つ裂きにしたり、輪切りにして処罰していたそうですね。

呉 日本人と関係することは、いかに下品で民族を貶めるとんでもないことか、ということですね。

前川 動物を相手にしたのと、一緒というわけですね。

呉 韓国人は「我々は一つの民族であり、そのため流れている血は清潔なのだ」という点が誇りなのです。だから、汚い血に塗れてはいけません。それが前提としてある。

「慰安婦問題」がここまで盛り上がるのは、この清潔主義と大きく関係し

ていると言えるでしょう。

前川 なぜ、米軍慰安婦の人たちに対しては、そこまで思わないのでしょうか。

呉 アメリカ人だと、「白人は高貴な人たちだ」となる。ところが、日本人となると大きな侮辱感を覚えるのです。

前川 韓国がキーセン観光（日本人男性観光客たちを狙った国策としての組織的売春斡旋）したときに、韓国のキリスト教女性団体は反対運動をしました。でも、この人たちは、アメリカ軍の慰安婦に関しては反対運動をしていません。

呉 「日本人だけは許せない」という気持ちがあります。日本人と関係した人たちは、血が汚れるというように、情緒的な反感が生理的な嫌悪感にまでなっているのです。こ

の純血主義は、北朝鮮では一層のこ  
と徹底されています。

キンジョニル

金正日は、民族の絶対条件を「一  
つの血、一つの言語」としています。

そして、その上で、「民族的性格と文  
化・風習、生活様式をそのまま維持  
することによって民族人になる」と  
言っています(チョ・ソンバク『金正  
日の民族観』平壤出版社)。

どこの国にしようとも、同じ民族  
同士で結婚し、同じ民族衣装を着る  
こと。だから、在日北朝鮮の人たち  
は、学校に行くときも民族衣装を着  
ていたのです。さらには、言葉もわ  
が国の言葉を使い、わが国の食べ物  
を食べる。

前川 かつて在日の人たちの考え方  
には、日本人の娘を嫁にもらうのは  
いいが、自分の娘を日本人の嫁に出  
すのはけしからん、というところが

ありました。

呉 この意識がとても強い。最近ま  
で日本人と結婚した人たちに対して  
差別意識が強くありました。まあ、  
ここ数年で、だいぶ薄れてきてはい  
ます。二十・三十年前まで、日本人  
と結婚する人たちは、とても、かわ  
いそうな人たちだと言われていまし  
た。

## モンスター化した「慰安婦問題」

前川 慰安婦問題も、九〇年代初頭  
まで一般の人たちの間では、ほとん  
ど関心がありませんでした。おばあ

さんたちがデモをしているのを見て  
いた若い人たちにどう思うか聞いて  
みても、「昔の話でしょう。かわいそ  
うな人たちね」という返事だった。日  
本との関係で考えるという感じは

まったくありませんでした。

それが、村山内閣時代の一九九五  
年「アジア女性基金」ができて以降、  
盛り上がりを見せ始めたのです。

呉 より強固になっていきました。

前川 今にして思えば、あれがなけ  
れば、韓国の人たちも関心を寄せな  
いまままで終わったでしょう。これに  
よって慰安婦問題がモンスターに  
なってしまった。日本が民間資金の  
建前でも金を出すとすると、「それは  
ひどいな。野蛮な奴らが金で誤魔化  
そうとしている。おばあさんが話す  
通り、やっぱり本当にあったんだ。  
悪い奴らだ」と。

呉 それで嘘だらけの物語がまこと  
しやかに信じられるようになり、い  
つの間にかバラバラだったものが、  
全部つながってしまった。慰安婦の  
女性たちからすると、嘆く材料がで

きたのです。今までは自分たちのせい、家族の問題として恥ずかしいものだった。ところが、「誰かのせいだった」となった途端、救われてしまうのです。

**前川** 日本が嘆く材料を与えたようなものでしょう。

**呉** 韓国は「恨み」「恨」の文化がとても強い国です。誰かのせいであるようになった、と誰かを恨むことでの自己正當化・自己救済をどこまでも求めていきます。これが、どんどん大きくなっていったときに、日本のせいになるのです。

**前川** だから、慰安婦問題もどんどん歯止めがきかなくなっていくわけですね。

**呉** 韓国では何につけても「私はあの人のせいで、こんなに不幸になった」と恨んで嘆くことは当たり前のこと

です。これが対外的に拡大していくと、私が、わが民族となり、血が騒ぎ立つのです。相手がアメリカ人であれば、それほど沸騰しませんが、なぜか日本人となると、「日本のせいで」と大いに嘆くことでやっと気持ち収まります。

「反日」とはとても複雑に絡んだ、韓国人の情緒なのです。ここまで考えないと、そう簡単に問題は解決しません。

**前川** そうなると、慰安婦問題は一体どうなるのでしょうか。

**呉** もし解決したとすると、韓国人は精神的に大変なことになります。反日民族主義の支えを失ってしまうからです。「やられた、やられた」という被害者意識は、韓国人にとってエネルギーの源泉です。そこにあるのは、我々は何の罪もない善良な民

族なのに……という身勝手な価値観です。一般的に韓国でずつと言われているのは、「わが民族はとても善なる民族だ」ということ。つまり、いくら攻撃されても、人に害は絶対に与えない。「常にいろいろな民族から攻撃されてきた我々ではあるが、我々は一度も相手に害を与えたことはない」——というわけです。普通の会話レベルにおいても、「私はとても完璧でキレイな人よ。私はまったく悪くない人間なのに、どうしてこんなに不幸なんだろう。あいつが悪いんだわ」と言うのが常です。

**前川** まるで夫婦ゲンカと同じですね。

**呉** 「誰かのせい」にすることで、自己が保たれる、惨めな気持ちにならなくてすむ、<sup>あつ</sup>「恨」をバネにして生きられる。そういうことです。

「あの旦那のせいで、こんな暮らし  
しかできない」

「うちの姑のせいで、こんなに苦し  
いんだ」

と言ひ合ひ、自分自身が癒されて  
いく。五百年以上も続いた李氏朝鮮  
時代の強固な専制主義国家下の歴史  
的な生活体験の中で、これが国民性  
にまでなつてしまったのです。

前川 解決したら嘆くものがなくな  
るから大変になるわけですね。そう  
なると、九五年の村山談話にすべて  
が辿りついてしまします。村山内閣  
が間違えたのです。村山内閣は韓国  
をよく知らなかった、いや、村山元  
首相というより社会党そのものが、  
それまで韓国とつき合いがほとんど  
なかったために、失敗した。共産党  
などと一緒に鳴り物入りで始めた帰  
国運動も、今では恨まれていますし。

### 十億円では手切れ金にならない

呉 なぜ、前川さんは、元朝日新聞  
の記者なのに、こういうことをズバ  
ズバ話すことができるのですか。朝  
日をやめたからですか。

前川 僕は時代時代ごとになつて  
いく韓国を見てきました。一方で、  
朝日にいたころから、朝日的な情緒  
に訴えるような報道は良くないとも  
思っていました。昔の朝日は「朴正熙  
政権をつぶせ」という論調でした。  
「暗黒のような庄政の下、人々は沈黙  
を強いられている」と報道していた。  
でも、実際に行ってみると、みんな  
元気に働いているし、エネルギーシ  
ュで、人をだまそうとする人も多い。  
「面白い国だな」と思いました。  
実態は違うのに、どうしてそのこ

とを伝えないのか、という思いが根  
強くあったのです。それを伝えなけ  
れば、日韓が普通の国同士にはなら  
ないだろうと。

呉 そういうことを朝日では書かれ  
たのでしょうか。

前川 わかる人はいたでしょうが、  
「どうも、お前の書く記事は気に食わ  
ない」人も、という感じでしたね。

呉 韓国問題になると、どうも、み  
んなキレイごとばかり言おうとして  
しまします。そうなると、韓国人の  
本当の考え方がわからなくなる。

前川 確かに朴正熙は独裁政権でし  
たが、それなりの時代背景もありま  
した。ひどいこともたくさんしてい  
ますが、韓国のためになることもた  
くさんしています。人々はある程度  
支持もしていた。それが実態なのに  
「まったくダメだ」という面に傾いて

いるのは、おかしいと思いました。

若いころ、「韓国のことをちよつと話せ」と、社内で言われたことがあります。「みんな朝日の論調で書いているけど、実際はちよつと違うよ」と話したら、それ以来、社内勉強会に呼ばれなくなりました(笑)。

どの組織でもそうですが、一つの流れができてしまうと、みんな、そちらに乗ったほうが得だとなつてしまします。朝日は、そういう傾向がもともと社内で強い新聞社だから、片方の勢いへどんどん流れ、結局、慰安婦問題でもつまずいてしまったのです。

呉 朝日の中にずっといても、韓国を長く取材すれば、朝日的な報道への疑問が出てこざるを得ないはずです。でも、率直にズバズバ言うようになる人はなかなか出てきません。

前川 お互いに理解するためには、

お互いの良いところ、悪いところをすべて知らないといけません。そのことを抜きにして「日韓関係を良くしなければ」と口でいくら言ったところで、何の意味もありませんよ。

呉 最近の日本はIS問題などに目が向いているから、韓国に対して、あまり関心が高まっています。「日韓合意」は一定の効果があつたというイメージでしょうが、韓国ではそうでもないのです。

前川 日本のマスコミの中には「今度の十億円は最後の手切れ金だ」との論調もありますが、韓国の人たちは、そうは思っていない。「十億円を出した」ということは、やはり俺たちの主張が正しかったんだよな。なら、これじゃ済まないよな」ということです。よね。

呉 その通りです。また言ってくるでしょうね。次の選挙では、おそらく与党は負けるでしょう。野党は、政権を握ったら「日韓合意は無効にする」と宣言しています。

前川 「遺族の面倒を見る」「家族や一族の面倒を見る」「国家功労者並に扱え」……など、ほかのことでもいろいろ言ってくるでしょう。補償請求の範囲がどんどん広がっていくだけです。ひいては「徴用で日本の炭鉱などで働いた人たちにも国家賠償だ」となってしまう。

呉 日本政府とすれば、「十億円を払い、韓国問題はこれで解決した」と、対外的にアピールしたいのでしょうが、あの韓国です。六五年の日韓条約のとき、あれだけ「これですべて終わりだ」と宣言し、文書もあるのに、それが帳消しになるようなことを

## ●またムシりとられた日本外交



ソウルの日本大使館前に設置された、従軍慰安婦問題を象徴する少女像(写真提供：時事)

言ってくるわけです。今回は文書のない口約束レベルでしょう。韓国が守るはずがありませんよ。

前川 それを考えると、日本の政治家は大甘ですね。自分たちの代だけがうまくいけばいいところが見え見えです。

呉 本当にそう思います。こんな日韓合意をしたために、日本に不利な材料を世界にいろいろと与えてしまったのです。これまで河野談話、村山談話がありました、今回の日韓合意では「日本は慰安婦問題を認め」たが、世界的な認識になってしま

ました。

英語圏のマスコミのほとんどは、「二十万人の慰安婦を強制連行したことを日本は認め、日韓合意をした」と一斉に報道しました。

日本語の微妙なニュアンスはとも英語では表現できません。「明治日本の産業革命遺産」がユネスコで登録が決定された直後に、佐藤地ユネスコ大使が英語で行ったスピーチの中に、一部の施設で「意思に反して連れて来られ、厳しい環境の下で働かされた多くの朝鮮半島出身者がいた」という日本語原文を英訳した文言がありました。「働かされた」は、英文では「forced to work」となっています。これに対して英語圏のマスコミは「日本は強制(奴隷)労働(forced labour)の史実を認めた」との表現で一斉に報道したのです。

これから東アジアの問題を研究しようとしたとき、検索すればこういった英語の文書がたくさん出てきます。それを見て、論文を書くわけでしょう。日本の原文がどうなっているかは、ほとんど見ませんよ。余計な材料を与えてしまったのです。今回の十億円も日本が認めたという証拠として使われ続けるだけでしょう。

**前川** 事実を認めたというわけですね。

**呉** おそらく、これからもいろいろなカードを出してくるでしょうね。

## 終わらないおねだり攻勢

**前川** 現在、韓国では最高検の検事長と青瓦台<sup>チヨングデ</sup>の首席秘書官、日本に上場している、ゲーム会社のネクソンのオーナーが絡んだ贈収賄疑惑が発

生しています。こういうニュースに触れると、確かに金額は、七〇年代の韓国と比べて一桁二桁三桁違いですが、社会的な実態は変わっていない、というのが率直な印象です。

**呉** あるときは、政府の政策として強く取り締まりをする。一時は沈静化しますが、再び、不正が起きる。この繰り返しです。

そもそも韓国社会には、頻繁に人にお金をあげる習慣があります。日本はお正月だけ「お年玉」として、親戚の子供たちにお金をあげる。でも、韓国では日常的に親戚の子供たちにお金をあげます。そうしないと悪口を言われまくるので大変です。

**前川** 「あの人は、親類のおばさんなんかじゃない」と言われるわけですね。

**呉** これは子供だけではありません

ん。少し高齢の親戚のおばさんと会ったときも、お金をわたします。お金をあげることは「善なる行為」と考えられています。親戚が遠くから来ると聞けば、「今日いくらもらえるかな」というのが、韓国の子供たちの普通の感覚です。

**前川** まるで、一年中サンタクロースからプレゼントをもらうようなものですね。

**呉** そこで「いくら稼いだ」と、子供たちは競い合っています。「お金をもらう」稼いだことになるのです。

「かわいそうな人だ」と思えば、大金をあげる。ちょこちょこあげると、それはまた「ケチ」と言われます。金額は大きければ大きいほどいい。

**前川** 日本では「お金をあげないでくれ。しつけにならない」とたしなめます。

呉 以前、私は韓国的な感覚で、日本の友人の子供にお金をあげたら、ものすごく怒られた経験があります。韓国ではそういう感覚はありません。早く出世してお金持ちになり、貧しい親戚や友人にお金を回す——これが韓国人の理想的な生き方なのです。

もう一方も、多ければ多いほど、自分の価値が高まります。「私に価値があるから、あの人は私にたくさんお金をくれるんだ」ということです。ケチって、少しのお金だけだと、「自分の価値はこれだけか」と言ってもものすごく怒ります。

これが韓国では当たり前です。その金額は、経済的に豊かになればなるほど、それに比例してより大きな金額が入ってこないといけません。相手と差がつかないといけないので

す。

前川 「これが最後です」という手切れ金がないわけですね。

呉 そうなります。慰安婦問題も、全部そうなのです。十億円を払ったからといって最後にはならない。いかにたくさんお金をもらえるかと、どんな値段を吊り上げていくでしょう。

前川 考えてみれば九〇年代のころ、ワイロはせいぜい一億円だった。金額を聞いて「ずいぶんインフレになったな」と思いましたが、豊かになったから増えたわけですね。

呉 韓国側からすると、「かつての日韓条約の金額では、まったく足りていなかった」と。つまり、今の経済価値観で訴えてくるのです。今回の十億円も、韓国では「こんなのは雀の涙の金額だ」と言うわけです。

北朝鮮も「許せない」と怒っています。北朝鮮にも元慰安婦たちがたくさんいると言っています。日韓合意をしてから、すぐに北朝鮮では、元慰安婦を探し出す政策を発表しました。この問題では、韓国も北朝鮮も同じ精神構造です。お金をいくらもらっても足りないと感じてしまます。「私の価値を認めるなら、もっと大きな金額を出せ」ということです。

前川 いくら出しても切りがありませんね。

呉 こういう国民性が問題の背景にあるわけですが、国民性の要(かなめ)にあるのが国民情緒であり、この国民情緒が国政を動かしているのが、現在の韓国なのです。

前川 こうした「モンスター韓国」と、日本は永遠に付き合わないといけないわけですね。